

「日々の理科」(第 3127 号) 2023, -2, 27

## 「すこやかまつり (4)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーション研究所 研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

1年生ががんばって開催した「すこやかまつり」は、普通のお祭りの夜店のようなものも多いが、そうでないお店もあった。



これは「ようふくやさん」というお店。洋服を売っているのかと思って立ち寄ってみたが、そうではなかった。まず渡されたのが、カラーのポリ袋の上と側面に穴を開けたもの。色は選べるのかと思ったら、くじ引きで決められるので、選べないらしい。それを首からすっぽりかぶって、その「服」にいろいろと飾りつけをするらしい。私にはサイズが小さく、キツキツだった。そこにリボンや折り紙を貼って完成。なかなか楽しかった。不思議なことに男の子にも人気があった。



こちらは「わなげやさん」輪も的にも手作りだ。輪は1回に3個投げられる。結構難しかった。



例の輪ゴム方式の「金魚釣り」もなかなか人気があった。うまく釣れると、1匹もらえるのが嬉しいのだろう。終わる頃には、金魚は半分ぐらいになっていた。



こちらは「おめんやさん」驚いたことに、お客さんの十二支に合わせた「作り方」12種類を用意してあった。私は昭和39年生まれの「辰年」なので、龍のお面の説明をしてもらった。



これが説明通りに、私が作った龍のお面「サラマンドラ」私がつけてもぜんぜん似合わないが、1年生がつけるとかわいい。ほかにも、さまざまなお店があって、実に楽しい活動だった。